

市長挨拶

2010年に愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されてから、今年で10年を迎えます。

国連はこの10年間を「国連生物多様性の10年」として定め、「自然と共生する世界」を目指し、世界中で生物多様性に関する取組が進められてきました。

本市においては、COP10の成果を継承し、「生物多様性2050なごや戦略」を推進する拠点として「なごや生物多様性センター」を2011年に設立し、市民・専門家・教育機関などの皆様との協働により、ため池の池干し、生きもの調査など身近な自然を保全・再生する取組を進めてまいりました。

また、「なごや環境大学」「環境デーなごや」では、市民団体の皆様が中心となり、生物多様性の大切さを伝える様々な講座や情報発信が活発に行われています。

さらに、2015年には市民活動の高まりにより、本市が日本で2番目のフェアトレードタウンに認定され、より一層の生物多様性の持続可能な利用に向けた取組が進んでいるところです。

このように市民団体・企業・学生・教育機関など多くの皆様のご尽力により、本市における生物多様性の保全や持続可能な利用に向けた様々な取組が着実に行われてきたことに対し、大変頭が下がる思いであり、心より感謝申し上げます。

2015年には国連において、2030年を目標とした「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。SDGsでは、誰一人取り残さない社会の実現を目指して、環境・経済・社会をめぐる幅広い課題に統合的に取り組むものとされています。

生物多様性の分野においても自然が持つ様々な機能を活かし、気候変動の緩和や適応、防災など幅広い課題の解決に繋がる一層の取組が求められています。

この「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」をきっかけに、自然との共生に向けた活動がさらにつながり、広がることで、あいち・なごやから持続可能な未来が切り開かれていくことを期待しています。



名古屋市長
河村 たかし

